

**<研修レポート>****「平成19年度 これからの都市づくり～中心市街地の活性化～」に参加して**

東海村役場 建設水道部
都市政策課 柴田 はるか

【はじめに】

平成19年5月30日から平成19年6月1日まで全国市町村国際文化研修所（滋賀県大津市）において「平成19年度これからの都市づくり～中心市街地の活性化～」を受講いたしました。今回の研修は、大学教授によるご講義、市町村による事例紹介、研修班別の課題演習によって構成され、全国の市町村職員40名が集まり、本県からは8名の方々が参加いたしました。以下に研修内容をご報告いたします。

【講義】

1. 「中心市街地活性化とまちづくりビジョン～政策転換の意義を踏まえて～」

講師：関西学院大学商学部 石原 武政 教授

○講演内容

- (1) まちづくり三法が変わった
- (2) 三法の背後にあった危機感
- (3) 中心市街地は本当に必要か？
- (4) 誰がまちをつくるのか？
- (5) 身の丈にあったまちづくり
- (6) 地方都市のまちづくり

各市町村は、よいまちづくりをするための基本計画を策定するのであって、国の認定を受けるための基本計画を策定するものではありませんとのこと。

そのためには、まず市役所の職員同士が本気で夢を共有し、それを達成するための道筋を考えなければならないと痛感しました。

2. 「地域再生に向けた戦略の確立に向けて」

講師：福島大学共生システム理工学類
鈴木 浩 教授

主に地方都市におけるコンパクトなまちづくりの考え方を確認しながら、地域社会再生の課題のもっとも重要なものである地域経済再生の考え方とその展開方向を探りました。

目指すべき都市は「地域力」「市民力」「市場力」「行政力」の4つをバランスよく発揮できる都市です。日本の都市政策では、「地域力」「市民力」の構築が大きな課題となっています。

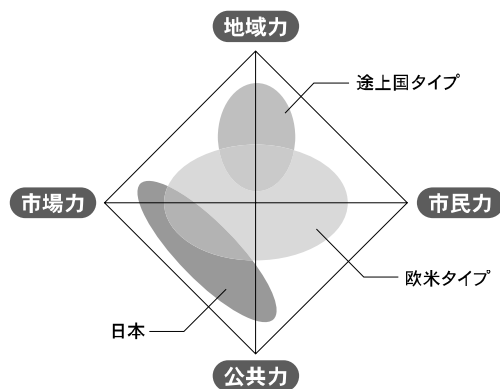


図-1 地域社会を支える4つの力^{注1)}

○コンパクトなまちづくりに向けての方向性

- ・自然や環境に対して敵対的であった従来の都市の姿やその政策を根本的に修正する。
- ・自律的な地域社会の再生、新たな社会システムを投影した都市の姿を視野に入れる。
- ・周辺の農村地域との豊かな連携を取り戻す。
- ・モータリゼーションを前提とした都市のあり方からの軌道修正をめざす。
- ・一定のルールや原則のもとに複合的な土地利用や高密度な土地利用を促進する。
- ・時間の概念を重視する。

【事例紹介】

1. 「市（いち）的交流空間形成によるまちづくり」（宮崎県・日向市市街地整備課）

日向市の中心市街地活性化整備事業は、「日向市駅周辺土地区画整理事業」「日向地区連続立体交差事業」「中心市街地商業集積整備事業」「交流拠点重点事業」の4つが行われています。特に、昨年12月に開業した新駅では、地域の特性である「木材」を用いた駅舎屋根が目玉となりました。駅舎屋根を見学するために市民が集まることで



「駅を活かしたまちづくり」が行われています。また、他の市町村からの視察要望が多くあることから注目されています。

2. 「賑わいあふれる中心市街地の実現をめざして」(長野県・長野市都市整備部まちづくり推進課)

長野市中心市街地活性化基本計画は平成19年5月28日付けで内閣総理大臣から認定されました。

同市より基本計画を策定するにあたってのポイントを紹介していただきました。

【基本計画を策定するにあたってのポイント】

- (1) 旧基本計画をいかに評価し、新基本計画につなげるか！
- (2) どのような「まち」を目指すのか、市として確固たるビジョンが必要！
- (3) 目標を達成するための「コア事業」があるか！
- (4) 具体的な数値目標と、それを説明できる根拠(各事業による積み上げ方式)が必要！
- (5) 事業は、5年間の中で確実に実行できるものに限定！

3. 「公共交通の活性化によるコンパクトなまちづくり」(富山県・富山市交通政策課)

富山市では、他の事例紹介とは異なる都市計画の形態を持っています。一般的には、1つの市町村において中心市街地は1つが理想とされていますが、富山市の場合、LRTを用いお団子(拠点地域)と串(公共交通)の都市構造を目指しています。

富山市におけるコンパクトなまちづくり

- (1) 市長自らが、タウンミーティングなどを通じて、市民にコンパクトなまちづくりの必要性和全体ビジョンを分かりやすく提示
- (2) 規制の強化ではなく誘導策を基本とし、市民の選択によるコンパクト化を推進
- (3) 誘導策のポイントは、公共交通の活性化とまちなか移住の推進
- (4) まちづくりの手段として、公共交通の活性化に行政が積極的に関与し、不採算の領域に対して、公設民営の導入により整備費用等を行政が負担
- (5) 中心市街地の活性化についても、特定の商店街の振興策ではなく、公共交通活性化や

まちなか居住推進など総合的な活性化を推進

4. 「人と文化をむすぶ歩けるまち～ヒューマンスケール都市～」(福井県・福井市)

福井市は、住みよさランキング(東洋経済新報社)2006において総合評価1位(全体780市)にランク付けされたまちです。中心市街地活性化の取り組みは、「出会い、暮らし、遊びが彩るまちづくり」という理念のもと、市民、商業者、行政が一体となって諸政策を展開し、これらが複合的に作用することにより、「新しい都市生活文化の創造」につながるまちづくりを進めています。中心市街地の区域は、来街者や市民を含めたアンケート調査や各種データ等をもとに設定されました。

【課題演習】

課題演習では、個別の事前課題シートに基づき、課題を解決するための論点を探り、それらを解決するためにどのように対応すべきかを、グループ討議(1班8名)・発表・講師からの講評を通じて考えました。発表後、鈴木浩教授から講評をいただき、担い手の育成や協働体制の確立のためには、「役所の中での人づくりが必要である。役所の人間が元気であれば、住民のまちづくりの参加意欲が向上する。」という認識が深まりました。

【おわりに】

今回の研修では、講義・事例・演習を通じ貴重な意見を聞くことができ、とても勉強になりました。都市施策にあたっては、本村の顔や特徴の引き出せるようなまちづくりができるように職員同士が熱意を持ち、その熱意が住民に伝わるように努めていきます。この機会を与えてくださった、県都市計画協会の皆様や上司に感謝いたします。

参考文献

注1) 鈴木浩：日本版コンパクトシティ地域循環都市の構築，学陽書房，p41，2007。